

No	ジャンル	意見
1	掲載順番	ページをめくってもなかなか基本理念に行き着かない。目次の前に何が伝えたいかわかるものを。
2		別冊で概要版は無駄ではないのか。第1章に将来ビジョンがあったほうが良い。
3		計画の最初に将来ビジョンあったほうがわかりやすいが、現状のほうが行政っぽいと思う。
4		なぜこの計画を出さないといけないとか、将来ビジョンを先に書いたほうが読む人は食いつく。今のはいかにも役所らしい書き方だ。市民が親しみやすくないと読んでもらえない。読みやすさとても重要だと思う。
5		委員は読むが、一般の人はどうかと思う。どんなことが書いてあるのか読んでみようというところから出発してもらわないといけない。
6		章立ては学術的には正しいが、P23基本理念を最初に出してもよいと思う。これまでの経緯もあるので、あとから出してもいいが、最初にもってくるのは、ほかの自治体では見られない。
7		章立てについては、「これを誰に誰のために作るのか」というところを重視し、これまでの概念を崩していただきたい。市民が読みやすいものにしてほしい。
8	策定にあたり	丹後に高校生や若者が残ってほしいが、田舎に残ることが恥ずかしいという風潮がある。
9		やりたかったことが30年たってもさせてもらえない。未だに「ロックは騒音」と年配者から言われ続けている。
10		「探求」の授業でアートに関心のある高校生5名と関わっている。彼らには文化的格差があるという自覚があり、インターネットを駆使し情報収集等している。海ごみアートなどアイデアを出している。
11		アイデアを形にして実施するために地域の方とのつながりを大事に考えている。食とアートの高校生ボランティアは、触れたことのないアートに目を輝かせている。丹後万博も高校生の実行委員会立ち上がり、アートに触れたい若者がいる。
12	計画の位置づけ	「位置づけ」「期間」は保存活用計画との「連携」については、具体的にどういう連携(すみわけ)をするのか。教育委員会の中なので連携しやすいと思うが、重複があるのか相互補完の関係があるのか気になるところ。
13	対象とする文化芸術の範囲	「ジオ」「自然景観」「文化的景観」という言葉の使い分け。「文化的景観」は日本の文化財の中にも後から入ってきた概念。P23基本理念、P29基本施策にも入っている。整理を。範囲に自然遺産と文化的景観を入れるのかどうか。文化基本法には入っていない。入れたほうがよいと思う。
14	文化芸術の現状	P13関係団体の取組に、国際交流協会の米軍演奏会等あげていただいているが、クリスマス音楽会、ハロウィンなどはカタカナで表記している。
15	キャッチコピー	前回の会議でキャッチコピー必要との話があったがどうか。
16		青年会議所ではアーティストインレジデンスに関わった時、それまでアートに触れてこなかったのだからわかりやすいスローガンを意識して作成した。
17		キャッチコピーはもう少し明確にならないか。ふんわりしているので、もう一ひねりほしい。デザイン性も工夫を。

18	基本理念	戻ってくるまちにするには平田オリザ氏の講演にもあったが文化芸術の力が必要。価値観が変わるくらいの書き方をしてほしい。
19		「これから何をするか」が書かれた後半に重きを置くべき。
20	基本目標	P 2 4 基本目標「つなぐ」という言葉が2つある。何か違う表現があればと思う。
21		P 2 4 基本目標「地産」になっているところ、違和感あり。「地・知縁」としてはどうか、考え方を生かしていくイメージ。
22		P 2 6 数値目標は必ずつけなければいけないと思うが、数値で計れるのか、苦しい。方針と表裏一体なのでリンクしたほうがいい。お金のことが入っていないのも気になる。入れることを検討いただけたら。
23		総合計画は「はぐくむ」という言葉を使っている。デザインや色使いはわくわくするようなものを期待する。
24		「はぐくむ」は愛情が感じられるが、「育てる」はそうではない。「はぐくむ」が好き。
25		「学ぶ」をいれてほしい。シンポジウムでも平田オリザ氏が親も教育に関して力を入れることを望んでいると言及された。教育の水準の高さが歯止めとなって丹後に帰ってくる若者が増えるのでは。学校と連携してそういうまちづくりをしてほしい。
26		文化を学ぶことを通してコミュニケーション能力を育て、市外からもいろんな方に来ていただいて活力あるまちにしていくことが必要。歴史を学ぶことにも力を入れて外に発信することも考えていただきたい。
27		「つなぐ・そだてる・いかす」基本目標が浮いてしまっている。デザインの力でカバーしてはどうか。
28		数値目標は基本目標と繋がったほうが良い。回数を指標にすると回数をこなすことに集中してしまい質に意識が向かなくなるおそれがある。質に関する数値目標が考えられないか。
29		文化芸術環境に満足と感じる人の割合55%の数値目標は現実的でない。一定数かならずグレーがある。感覚的な指標は過半数取るのは難しい。情報関係でWi-Fiの数などだと具体的に書ける。
30		観光の要素少ない。資料館への市外からの入館数とかだとクリアにすることができる。
31		モヤっとして疑問に思う部分あったが、数値目標の置き方についてご意見いただきすっきりした。数や質に対しての意識について整理できたら良いと思う。
32		基本方針
33	情報を市としてまとめてお知らせできる媒体があればと思う。このことはアンケートにも書かれていた。どう発信するかのあたりも検討を。	
34	ばらずし作りで学校へいくが、そういうことを求める学校と求めない学校があるのは残念。どこの学校でも学べるような体制にしてほしい。伝承や文化は市内全域同じ水準で学ばせてあげたい。	
35	みんなで京丹後を魅力あるまちにしようとしていることがちゃんと伝わっているのか疑問。ビジョンを示せているのかどうか。	

36	基本方針	P25 基本方針はそれぞれ重みがある。「少子高齢化」は文化的教育（少子）の問題と健康長寿（高齢化）の問題にわけて持続可能となるように考えると良い。
37		基本方針では、どこが担うか主体を書くべき。肝になるところと思う。特に専門人材の部分は重要。
38	基本施策	丹後文化会館についての言及が深掘した議論にならなかった。今回は「検討する」ととどめているが、時間をかけられないという思いから◎になっているものと思う。
39	推進体制	第5章の推進体制について、PDCAサイクルでいうと審議会はDOは担えない。推進体制は足並みそろわないのが現実だが、1から5までを束ねる形で年に2回は開催するのが良い。
40		P30 推進体制について、文化事業団よりも学校、文化芸術団体など主体があったほうがよい。
41		推進会議について、意見交換は幅が広がり非常に大事。定期的で開催されたらよいと思う。市長部局も入れて意見交換を。審議会が進捗管理のところに書かれているが、定期的にご意見を交わし翌年の予算に反映できればよいのでは。シンポジウムのように、委員も一緒に若者の意見を聞かれたら良い。
42		インターローカル。北近畿の強みと弱み。ローカルとローカルのつながりを意識。
43		現場の人が推進会議で顔をあわせて意見交換する場、是非やったほうが良い。
44		北近畿としての連携明記の部分、とても大きい。平田オリザ氏の講演にもあったが、北近畿としての推進体制も必要になってくる。
45		進捗管理
46	5年後見直しの機会に高校生など若い方、移住者などの意見をワークショップや意見交換会設け聞かれたらいかがか。	
47	概要版	京丹後市は若い人も丹後弁を話すので、概要版は丹後弁で作ってみては。全体版と見比べて見ることが出来る。
48		概要版に「丹後弁」を使うという意見はおもしろい。「丹後弁」といっても各町で少し違いがある。また、文章にしてしまうとわかりにくいので、計画の説明をするとき丹後弁で話して説明するというのはどうか。
49		概要版に丹後弁を入れるというのは興味深い。音訳なども含めて音で聞く人たちにとっては排除されずに済むことにつながる。
50		次回が最終となるが、概要版についてはせめて構想だけでも見せてほしい。